

身分之程も帰り見ませず

恐ながら口上ヲ以申上奉升

扱私事上坂致ましてより

最早五ヶ年餘に相成ますれど

朝夕御當地之なつかしく

今一千度御目通り致度奉り

処幸ひ此度身延山参詣を

思ひ立ましたる所師匠玉助義

申升るニハ其ついでに江戸表迄

罷下り年来御眞履御取立

相成御礼ヲ申上ゲ口上ゲ呉様達に

相進メ升るゆへ此たび改名の御礼

且は私義再三御目通りを仕升る

と申口上恐ながら左様おぼし召

罷下様偏ニ願上奉り升

乙鳥や忘^{わす}らぬ江戸の土乃味